

清須市



働テラス



令和 7 年度 「第 1 回清須市協働テラス（12 月 6 日）」 開催記録

日 時：令和 7 年 12 月 6 日（土）14:00～16:00 （会場設営と直前打ち合わせ 13:00～16:30）

場 所：清須市役所 北館 2 階 第 1・2 会議室

出席者：26 名 ＜会場スタッフ：清須市職員、4 名、ボランティアネイバーズ 3 名も左記に含む＞

全体進行(ファシリテーター)：西森真紀／NPO 法人ボランティアネイバーズ（以下、VNS）

開会挨拶と事業説明：「清須市協働テラス」開催にあたって

○開会挨拶（清須市企画部企画政策課長 神野さん）

- ・令和 7 年度第 1 回の清須市協働テラスにご参加いただきまして、ありがとうございます。
- ・今年度は清須市にとって市制 20 周年という節目の年で、さまざまな記念事業を進めております。
- ・その中で清須市の行政指針として「第三次総合計画」がスタートし、七つの政策方針の中でも「子どもたちの笑顔があふれるまちづくり」を今後 10 年間の重点政策として掲げました。
- ・本日のテーマである「清須ファミリー・サポート・センター（以下、ファミサポ）」や子育て支援について、皆さまからぜひご意見を頂き、出生率の維持や企業誘致にもつながるアイデアとして、これからのまちづくりに活かしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○「清須市協働テラス」これまでの事業報告とこれからの方向性

（清須市企画部企画政策課 山内さん）



1.これまでの「清須市協働テラス」

- ・「清須市協働テラス」では令和元年度から様々な事業が実施されてきました。
- ・ヘイケボタルの家作り：春日小学校の旧飼育小屋を改修し、ヘイケボタルの育成環境を整えたところ、数年後には成虫の生息が確認できました。
- ・水辺の散策路案内看板の整備：水辺の散策路にある老朽化した案内看板を刷新し、子どもたちから寄せられたイラストを用いて全 11 か所を改修しました。
- ・市民協働だよりの発行：「市民協働だより」も継続発行しており、令和 5 年度からは年 2 回の発行体制となりました。
- ・健康フェス：体力作りや健康をテーマに市内の体育館で実施し、年 2 回が定着してきています。
- ・若い世代の地域活動体験：若い世代の地域参加としては、中学生の声を受け、ジョギングとごみ拾いを組み合わせた「プロギング」を実施しました。
- ・子育て支援：子育て支援では、地域のイベント情報を検索できる「タッチポイント教室」を導

入し、さらに子育て中の親が気軽に集える「繋がるテラス」をヨシヅヤ清洲店ありがとうひろばや市立図書館で開催しています。図書館での実施時には多くの参加があり、自然な交流が生まれました。

2.これからの方向性

- ・今年度からは、意見交換のテーマ設定の方法を見直しています。これまでは中心メンバーを中心にテーマを決めていましたが、より地域課題に向き合うため、市が行う各種ニーズ調査を基に、市民の声を反映したテーマ設定へと変更しました。
- ・特に今年度は、全国的な課題である人口減少と、本市が重点を置く子育て支援サービスに着目しています。また、少数意見が埋もれないよう AI 分析も活用し、多角的な視点から課題を抽出し、今年度のテーマを二つ設定しました。

テーマ設定概要「子育て支援のニーズ調査結果で注目した内容について」

(清須市企画部企画政策課 山内さん)

- ・今回の子育て支援ニーズ調査では、行政サービスの利用状況や、今後の利用意向を中心に注目すべき点がいくつか見えてきました。
 - ・まず、産後ケア・産前産後ヘルパー・ファミリーサポートセンターの3つについて、特にファミサポが「6割の認知に対し、利用経験が極めて少ない」ことが大きな課題として浮かび上がっています。依頼会員276名に対し、提供会員は43名、両会員は9名と大きく不足しており、特に“子どもの送迎”ニーズに対して担い手が追いついていない状況です。
 - ・また、母親の就労状況では、約8割が何らかの形で働いており、育休を「2年以上」取りたいという希望が多い一方、実際にその期間を取得できている方はごくわずかというギャップも明らかになりました。市に期待する点としては、「経済的支援の強化」や「企業の育休取得促進への働きかけ」など、働きながら子育てをする上での不安が増していることも伺えます。
 - ・これらを踏まえ、本日の意見交換テーマは二つです。
- 1つ目は「清須ファミリー・サポート・センターの提供会員（両会員）不足について考える」。
- 2つ目は「子育てを、チームで。地域主体で子育てを支える仕組みづくりを考える」。
- “地域の力をどう引き出すか”について、皆さんの視点やアイデアを広くいただきたいと思います。

事例紹介① 「清須ファミリー・サポート・センター」について」

(清須市健康福祉部児童保育課 八木さん)



・ファミリー・サポート・センターは、育児の手伝いをしてほしい「依頼会員」と、手伝える「提供会員」、両方を担う「両会員」が助け合う仕組みで、国が定めた「子ども・子育て支援法」と呼ばれる子育て支援事業として各市町村で実施されてる一つとなります。清須市でも、送迎や一時預かりを中心に多様な援助が可能で、会員登録の手続きや養成講座などの仕組みが整えられています。

- ・ただし、提供会員は“市民ボランティア”であり、できる範囲の活動に限られるため、センターとして無理な依頼調整はできません。特に、車での送迎ができる提供会員が減少しており、ニーズが高い時間帯に対応できる方が不足していることが大きな課題です。そのため、今年度は送

迎依頼のマッチングが成立しなかったケースも生じました。

- ・こうした状況をふまえ、「どうすれば提供会員を増やせるか」「送迎ニーズに応えられる仕組みをどう整えるか」について、皆さんのお知恵をいただければと考えています。

事例紹介② 「企業における子育て支援に関する取組事例の紹介」

（明治安田生命保険相互会社 土本さん）



・明治安田生命では、女性の社会進出支援を重要なテーマと位置づけ、働きやすさを高めるための制度を整えています。産休・育休に加え、独自制度として「キッズサポート休暇」「子の看護休暇」を用意しており、小学校３年生までの子どもを持つ職員が、年間各５日ずつ取得できる仕組みが好評です。制度が“使いやすい”雰囲気づくりにも力を入れており、職

場で子どもを預かりながら働ける柔軟な体制も整えています。

- ・営業所では子育て世代の職員が多く、互いに助け合う環境が自然と形成されています。長期休暇中に子どもを連れて出社することも珍しくなく、「制度」と「職場風土」の両面から子育てを支える企業文化が実践されています。

意見交換会

- ・全体進行からの声掛けにより話したいテーマ毎にグループ（全５グループ）をつくり、意見交換を始めました。

①清須ファミリー・サポート・センターの提供会員（両会員）不足について考える

②子育てを、チームで。地域主体で子育てを支える仕組みづくりを考える

- ・話題提供者もグループに入り最初に簡単な自己紹介からはじめ、みなさんリラックスした雰囲気ですぐに話ができました。
- ・25分で区切り席替えをする。その際１人を残してグループを移動することで互いにグループで話していたことの共有をしました。

<全体の様子>





当日アンケート（一部抜粋）

①ファミサポ改善のアイディア

< 情報発信 >

- ・ 認知度を高めるためにもっと情報提供を！まずはファミサポを知ってもらうための説明会などがあっていいのでは
- ・ 地域で共通のサポートを作り、情報を共有するともっと広がっていくと思う
- ・ 何かのイベントなどと抱き合わせて説明会を実施する
- ・ 「ファミサポ」はこんなことができますよもっとオープンになるといい。また、保育園のお迎えから習い事への送迎など具体的な例を出すと分かりやすい
- ・ ファミサポに登録してもらうための説明ではなく、まずはファミサポのことを知ってもらう説明会をするとよいのでは
- ・ 提供会員になれそうなシニア世代向け（カルチャ利用者）に説明会をやってみるのもいいと思う
- ・ ファミサポの提供会員になることに対してハードルが高いと感じている方が多い。ボランティアに近いものなので「やりがい」を前面に押し出す広報をすると良いのでは。

< サービス等 >

- ・ 簡単に利用できるようアプリなどでサービスを受けられるように構築してほしい
- ・ 提供会員同士のコミュニティを作り、楽しみながら交流できる場があるとよいのでは。
- ・ ファミサポカフェを開催して、提供会員同士で楽しんだり、依頼会員の声（感謝の声）を届ける機会があるといい。
- ・ 依頼会員と提供会員がゆるやかに顔見知りになっておくとう助け合いやすいと思う。

< 地域企業・団体との連携 >

- ・ 企業に対しての協力・参画があるとよいのではないかな。
- ・ 営業所でのファミサポの登録者の紹介などではできないのではないかなと思った。
- ・ 市民のみではなく、市民と関わりの多い企業の力を利用する。

②地域主体で子育てを支える仕組み

< 環境、ネットワーク >

- ・安心して子どもたちが集まることができる場所や人が必要。
 - ・市内各団体や市民の協力を得られるネットワークづくり。
 - ・まずは人材マップを作成し、定期的に話し合う場づくり。
 - ・学区単位くらいの小さなコミュニティで、色んな世代が顔なじみになり集うことで、新しい仕組みができるのではないかと思います。
 - ・全く知らない人に子どもは預けにくいと思う。気軽に他世代が集まり顔見知りになるコミュニティカフェのような場所があるといい。
- ＜地域企業・団体との連携＞
- ・営業所を開放して、子どもやママさんが集える場にすることはできるかと思った。
 - ・自治会で支援できる仕組みがあるとよいのでは。

感想共有

＜参加者＞

- ・今日ここに参加してみて、あと1年半後くらいに清須で自分のお店を立ち上げたいという気持ちが強く残りました。お寺で子どもを見ている取り組みがあるとか、行政だけでなく民間で立ち上げればもっとコミュニティが広がるという話が印象的でした。私もその一つになりたいと思って参加しました。
- ・今日集まった皆さんは、子育てに対する思いの強い方ばかりだと感じました。清須にもこういう方はたくさんいるので、それをまとめるネットワークづくりが大切です。日進市では子ども支援ネットワークが機能していて、団体同士のつながりで子どもの課題が解決していきます。ファミサポも民間委託でできる仕組みがあるので、市民が自主自立して事業を運営できるようになると、豊かなまちづくりにつながると思います。北名古屋のNPOの例も参考になるので、情報を届ける仕組みを清須でも作れるといいなと感じました。
- ・地域で子育てをチームで支えるという考え方にとても共感しました。議論をしていると現状への不満や否定から入ってしまうこともありますが、メリット・デメリットを柔軟に見れば必ず前に進めると思います。私は企業側の立場ではありますが、清須市の子育て支援に少しでも力になれば嬉しいです。今後も明治安田として地域活動を続けていきたいと思っています。
- ・ファミサポは“預かり”のイメージが強いですが、実際は散歩のついでに送迎するくらいの軽い関わりでも十分できるんです。そういう話をすると、“それならできるかも”という声が多くて、やっぱり制度を知らない人が多いと感じました。だからまずは、説明会というより“知ってもらう会”が必要だと思います。イベントと組み合わせれば参加しやすいでしょうし、民間サービスとうまく連携すれば、もっと気軽に関われる仕組みが作れると思いました。清須には良い活動が多いので、情報共有ができれば、提供する側もやりがいを感じられる場になると思います。
- ・産後のお母さん、悩みのある子ども、障害のある方、シニア…それぞれに“できること”があって、それを地域でつなぎ合える仕組みができるといいなと思って話しました。私は体を動かすサポートの仕事をしていますが、通常のスポーツ施設に行きづらい方でも参加できる場があればいいなと感じています。“つながるテラス”では、地域の人が集まり、支援する側も受ける側もつながれる場を作っています。仲間を募集中なので、興味があれば声をかけてください。

＜八木さん（事例発表者）＞

- ・ファミサポが“仕事のように見えてしまう”と感じています。本来は10～15分の短い援助も含め

て、もっと手軽に参加できる制度なんです。そのやりがいや軽さが伝わるような工夫が必要だと今日の意見を聞いて思いました。持ち帰って、どうすれば良さが伝わるか考えたいと思います。

<土本さん（事例発表者）>

・行政サービスはホームページに載っていても、なかなか市民に届かないのが課題だと感じました。私たちは保険の案内とは別に、清須市の行政サービスもお客様に紹介する活動をしています。ファミサポに興味を持つ方も増えているので、つなぎ役として力になれると思っています。今日はとても学びの多い時間でした。

閉会にあたって（山内さん）

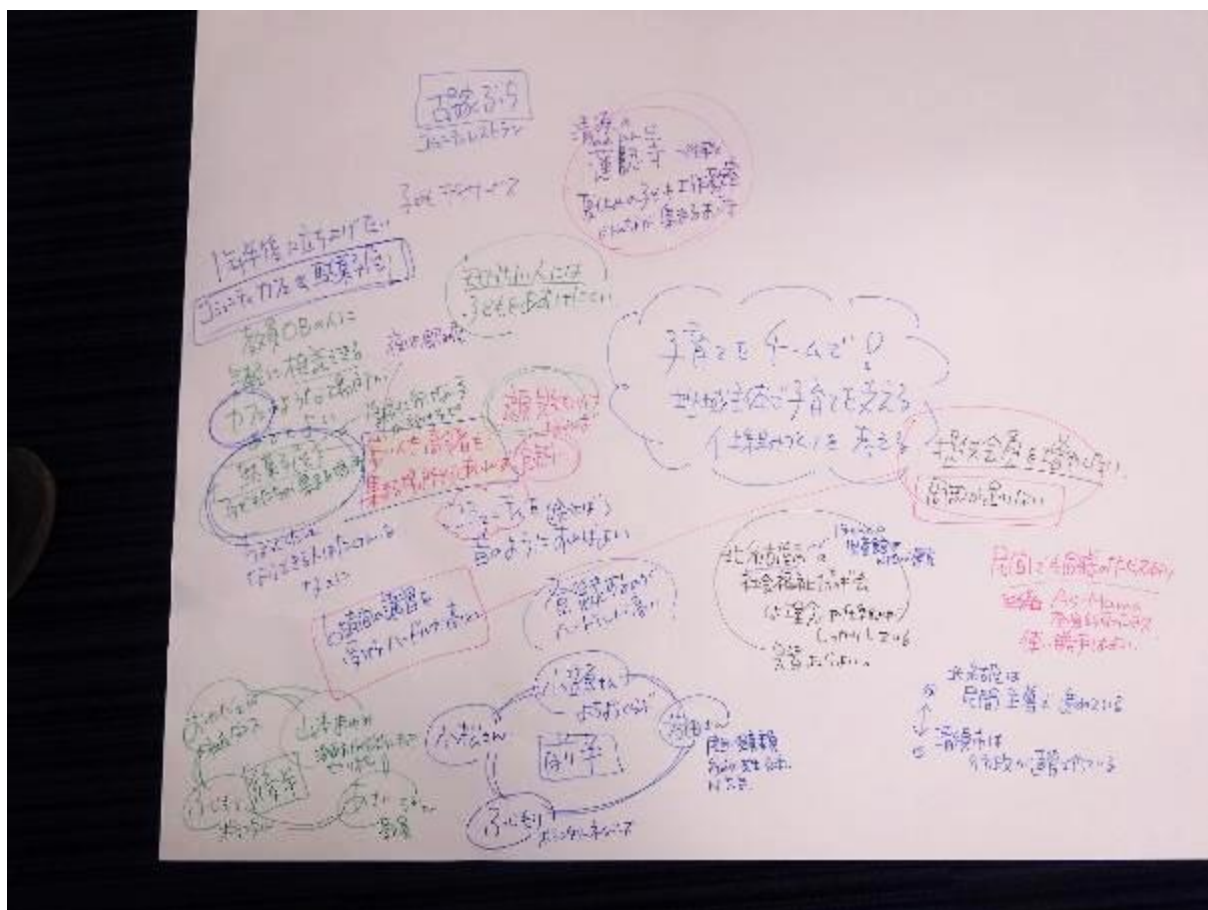
・今日はたくさんの意見をいただき、本当にありがとうございました。来週8日から1か月ほど、今日と同じテーマでオンライン意見募集を行います。今日出しきれなかった意見もぜひ投稿していただければと思います。集まった意見はAIでまとめ、“市民AI”として次回の協働テラスで活用し、さらに議論を深める予定です。ぜひ楽しみにしてください。

<感想共有、閉会の様子>



<ワークショップの模造紙>

① 「清須ファミリー・サポート・センター」について



②「企業における子育て支援に関する取組事例の紹介」

